

一般社団法人大日本猟友会 令和元年度事業報告書

令和2年5月28日理事会承認

I. 令和元年度実施事業の概要

令和元年度に実施した事業のうち特に特筆されるものは、第一に元年が法人設立八十周年に当たることから、これを本会のステータスを高める好機と位置付け、記念式典や10数年ぶりの安全狩猟射撃全国大会等の各般の記念事業を展開しました。

また、7月に実施された第25回参議院選挙の比例区に自民党公認候補として出馬した尾立源幸氏の応援を、各都道府県猟友会の協力を得て行いましたが、残念ながら当選には及びませんでした。

その他の主な事業については、長年の課題であった狩猟事故共済保険の約款等の見直しを実施し、秋の新猟期から適用しました。狩猟関係法令等の改善については、狩猟税の減免措置（地方税法）が元年度から5年間延長されるとともに、指定管理鳥獣捕獲事業の実包無許可譲受（火薬取締法）の対象化が実現しました。また、都道府県猟友会の協力により、構成員名簿の全国統一様式によるデータ化を行い、構成員の管理向上に大きな効果がありました。

構成員の育成確保については、引き続き都道府県猟友会への助成等を通じて重点的に取り組み、全体ではその減少は1%以下という最小限に留まりました。

さらに、再加入を行った国際狩猟関係機関であるCIC（国際狩猟・野生動物保全評議会）に関しては、5月にアフリカのナミビアで開催された年次総会に佐々木会長が出席し、各国の狩猟者・機関と意見交換や交流を行いました。

元年度の収支については、八十周年記念事業の実施と共済保険事業の支払額のやや増加があったものの、概ね健全な状況を維持しながら安定的に推移しました。

II. 構成員数、役員、会議開催等について

(1) 構成員数

元年度末時点の構成員数は、都道府県猟友会の取り組み等の効果もあり、第一種銃猟構成員は引き続き減少したものの、わな猟構成員の増加もあり、全体では約800人(0.8%)の減少に留まりました。

女性構成員については、30年度の2,154人から2,458人に増加し、全構成員の2.1%から2.4%となりました。

(構成員数)

種 別	わな猟	網猟	第 1 種銃猟	第 2 種銃猟	合 計
29 年度	35,788	360	67,444	2,194	105,786
30 年度	36,059	344	65,905	2,734	105,050
元年度	37,477	340	63,747	2,671	104,235

単位：人

(2) 役員の異動

2 名の監事の退任等を受けて、定時総会で後任の辻森・細田両監事を選任しました。

(3) 会議の開催等

- ・ 定時総会 6 月 12 日 (於アルカディア市ヶ谷)



- ・ 理事会 第 1 回 5 月 31 日
第 2 回 3 月 26 日
- ・ 監 査 30 年度事業監査 5 月 27 日
新監事との懇談会 9 月 18 日
- ・ 業務執行理事会 共済審査委員会等に合わせ 6 回開催
- ・ 委員会等
総務委員会 9 月 18 日、2 月 19 日
共済審査委員会 5 月 21 日、7 月 25 日、10 月 10 日、12 月 11 日、2 月 6 日、
3 月 26 日
- ・ 都道府県猟友会会長会議
9 月 28 日 安全狩猟射撃全国大会に併せて開催 (大阪府泉佐野市)

- ・ブロック会議

東北北海道 5 月 9 日（新潟市）、関東山静 4 月 18 日（静岡県伊豆市修善寺）、中部 5 月 14 日（石川県七尾市和倉）、近畿 5 月 22 日（京都府亀岡市）、中国四国 4 月 25 日（岡山市）、九州沖縄 4 月 11 日（福岡市）

- ・ブロック安全狩猟射撃大会

全国大会開催のため、元年度は未開催

Ⅲ．令和元年度実施事業

1．重点事業

①法人設立八十周年記念事業

元年度が本会の法人設立八十周年に当たることから、本会の情報発信やステータス向上の絶好の機会と位置付け、次の各般の事業を展開しました。

- ・記念式典・記念講演会・懇親会（10 月 16 日、帝国ホテル東京）

環境省・農水省・警察庁等の来賓出席の下、式典を開催

安倍総理よりビデオメッセージによる祝辞

環境大臣・農水大臣より本会等へ感謝状の授与

本会会長より県猟会長へ表彰状・感謝状の授与

「猟友会憲章」の発表

記念誌の作成・配付

記念講演会（講師：松浪日体大理事長）の開催

政府与党、関係省庁、関係団体等を招いた記念祝賀会の開催



- ・安全狩猟射撃全国大会（9月29日、大阪総合射撃場）



（大阪府猟友会提供）

- ・都道府県ごとの構成員名簿（デジタル化及び共通様式）の作成
- ・「構成員証」（裏面に「猟友会憲章」を掲載）の新規発行（3月）
- ・本会 WEB サイトのリニューアル（作業中）
- ・日猟会館展示物（はく製）のリニューアル
エゾシカはく製（協力：ロイヤルハンティングクラブ）完成、ヒグマ捕獲待ち
- ・その他
日猟会館応接室に熊野大社（島根県）の神棚の分祀（島根県猟より寄贈）

②狩猟・猟友会に関する情報発信及びステータスの向上

狩猟や猟友会に対する理解をより深めるため、記念式典等の機会を活用して、次の情報発信や関係機関等からの信頼性向上等を図りました。

- ・「猟友会憲章」の策定・公表（再掲）
- ・SNSによる猟友会情報発信の強化及びWEBサイトのリニューアル準備
- ・野生生物管理に関する学会関係者や研究者等との交流、意見交換の実施
- ・「狩猟と環境を考える円卓会議の提言」（平成23年）の具体化のための新たなアクションプランの検討着手
- ・再加入したCIC（狩猟・野生動物保全国際評議会、本部ハンガリー）の年次総会への参加やハンガリー大使館との交流等による国際交流・情報交換の推進

③猟者育成確保対策の推進

銃猟に関する規制緩和や当該事業に積極的に取り組む都道府県猟友会への重点的な支援等を通じ、国とも連携協力しつつ、次の狩猟の担い手の育成確保対策に引き続き取り組みました。

- ・関係法令の規制緩和関係では、自民党鳥獣議連を通じた活動の成果として、狩猟税の減免措置（地方税法）の5年間延長と、指定管理鳥獣捕獲等事業の実包無許可譲受（火薬類取締法）対象化の実現
- ・都道府県猟友会に対する助成金の増額、及び狩猟者の増加を目的としたイベント開催等の取組みに対する支援の拡充

- ・都道府県猟友会に対する延べ 15 回のハンティング・シュミレーターの貸出し
- ・環境省主催の「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」に対する支援・協力



(鳥獣議連、R2.2.26)

④共済保険約款の改正及び安全狩猟対策の推進

6 月に長年の懸案であった狩猟事故共済普通保険約款の全面的な改正を行い、保険金給付内容の適正化や保険金請求・給付手続きの簡素化・迅速化等の改善を行い、秋の新猟期から適用しました。

また、新規加入構成員に対する安全狩猟ベスト・帽子の配付及び着用促進を引き続き行うとともに、研修開催等による狩猟指導員の指導能力の向上を図り、安全狩猟対策を一層進め、他損死亡事故の発生はありませんでした。

2. 一般事業

各種継続事業等の一般事業については、引き続き経費の適正支出、事業の効率化等に努めるとともに、関係法令・ルール順守や個人情報保護をはじめとするコンプライアンスに十分留意しつつ、円滑な事業実施を図りました。

(1) 各種都道府県猟友会助成金の配賦

都道府県猟友会に対し、構成員数又は助成要望に応じて各種助成金を前年度より増額して配分し、各般の事業を支援しました。

但し、各ブロックの安全狩猟射撃大会については、八十周年記念事業として全国大会を開催したことから、開催がありませんでした。

(令和元年度助成金)

種 別	助成対象県猟数	助成額(千円)	備 考
ブロック会議助成金	全県猟(6ブロック)	4,700	1 県猟 100 千円
安全狩猟射撃大会助成金	(6ブロック)	0	全国大会に振替
狩猟事故防止助成金	同上	64,086	
猟友会活動助成金	同上	34,786	
鳥獣保護増殖成金	同上	19,724	

担い手育成確保助成金	全県猟	33,729	前年度より増額
安全研修等助成金	19 県猟	12,384	
合 計		164,709	納入金合計の 41.0%

(参考) 構成員納入金合計 401,779 千円

※このほか射撃全国大会の交通費等支給あり

(2) 狩猟事故共済保険運営事業

元年度は、他損死亡事故の発生はありませんでしたが、保険金請求・支払件数及び支払額（請求ベースで、過年度発生分を含む。）はともに増加し、支払額は約 85,700 千円となり、前年度より約 5,500 千円増加しました。

(保険金支払件数及び金額)

年 度	他損死亡	他損傷害	自損等死亡	自損傷害等	計	支払額
29 年度	1	8	7	186	202	56,988
30 年度	1	2	19	223	245	80,216
元年度	3	6	8	263	280	85,680

単位：件、千円

(元年度末共済保険準備金等)

積立準備金（額面）	責任準備金	価格変動準備金
700,000	149,947	560

単位：千円

(3) ジビエ利活用の推進

政府によるジビエ利活用拡大に関する取組みに対し、ジビエ普及イベントへの協力や助言等を行いました。また、農水省の捕獲者認証制度検討委員会等に佐々木会長が委員として参加し、狩猟者としての視点から提言等を行いました。

また、1 月 29 日自民党本部において、今や恒例となった「第 4 回自然と農山村を守る狩猟のつどいージビエを食べて中山間地を守ろうー」を開催し、多くの関係与党国会議員・省庁幹部職員等にジビエの普及と利用についての PR を行いました。



(4) ドローン技術者養成等

ニホンジカ等の生息状況の的確な把握のため、上級ドローン操縦技術者研修を熊本市で開催するとともに、引き続き関係都道府県猟友会に練習機の貸与を行いました。

(5) 狩猟読本・例題集、狩猟関係物品の販売・斡旋

狩猟読本・狩猟免許試験例題集の発行・販売の他、狩猟者記章、狩猟用標識、鳥獣保護管理員手帳・記章、わな・網の見本猟具等の狩猟関係物品の斡旋販売を行い、都道府県猟友会や都道府県狩猟担当部局の利便を図りました。

(6) 会報、講習会用ポスターの作成・配付

「日猟会報」を約 12 万部作製し、9 月に各都道府県猟友会及び関係機関等に送付しました。また、狩猟免許試験事前講習会広報用ポスターを約 1 万枚作成し、4 月に各都道府県猟友会に配付しました。



(7) 狩猟者登録申請手続便覧の作成

各都道府県及び都道府県猟友会から狩猟者登録に関する情報を収集し、8 月に「狩猟者登録申請手続便覧」を作成し、各機関に配付しました。

(8) 功労者の表彰等

各都道府県猟友会からの推薦を踏まえ、4 月に 165 名の本会功労者に表彰状・記念品を贈呈しました。また、都道府県猟友会からの要請を受けた表彰状・感謝状の贈呈を行いました。

(9) 野生鳥獣感染症調査等への協力

農研機構動物衛生研究所（家畜疾病感染調査）及び東京農大畜産学研究室（イノシシ遺伝子調査）から依頼を受けた感染症等に関する調査について、都道府県猟友会の協力により、ニホンジカ・イノシシの検体の採取・送付を行いました。

(10) 野生鳥獣の専門家との交流等

11 月に金沢工業大学（金沢市）で開催された「野生生物と社会学会」に参加し、野生鳥獣や狩猟に関する学識関係者、関係学生等と意見交換等を行いました。

また、狩猟文化を研究・継承していくため、学識経験者との意見交換を引き続き行うとともに、6月に北秋田市で開催された「第30回マタギサミット」及び「マタギンポジウム」に参加し、関係者等との交流を図りました。

(11) 国際交流の推進

5月にナミビアのウィントフック市で開催された「国際狩猟・野生動物保全評議会」(CIC、本部：ハンガリー)の年次総会に佐々木会長が参加し、スピーチを行うとともに海外の狩猟者・団体と交流しました。また、令和3年秋にハンガリーで開催予定の「2021 World Hunting Expo」の情報収集を行うとともに、駐日ハンガリー大使館と交流を深めました。



(CIC 年次総会とスピーチする佐々木会長)

3. その他

(1) 基本財産等の運用

共済事業積立金については、引き続き安全かつ高利回りの保有債券から配当を得ました。

所有不動産である日獵会館の賃貸用事務室については、引き続き住友不動産(株)を通じ賃貸を行い、運用収益を上げました。

(元度末所有債券と利金)

銘 柄	額 面	期 間	運用利率(年、%)	年間利金
SMBC 日興証券	300,000	17.7.13～34.8.2	2.35	7,050
同 上	100,000	17.8.29.～37.9.14	3.0	3,000
同 上	300,000	17.11.8～37.11.27	3.8	11,400
計	700,000		平均 3.06	21,450

単位：千円

(元年度賃貸収入)

所有物件	賃貸先	テナント名	年間賃貸料
事務室	住友不動産(株)	スターエソジヤパン(株)	15,616 千円

(2) 借入金及びその返済

29 年度に新ベスト・帽子作製のため三井住友銀行から借入れた 2 億円については、毎月計画通り返済を行い、3 月末での借入金残額は 71,656 千円となりました。

(借入金の返済計画)

返済年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度	合 計
返済金額	30,725	52,109	51,382	50,742	20,914	205,873

単位:千円

(3) 事故防止対策積立金

28 年度に設置した事故防止対策等に備えるための積立金は、元年度は 10,000 千円を積立て、合計で 60,000 千円となりました。

(事故防止対策積立金)

年 度	28～30 年度	元年度	元年度末計
積立金額	50,000	10,000	60,000

単位：千円

(4) 災害見舞金の積立及び贈呈

10 月の台風 19 号等による自然災害で被災した構成員に対し、災害見舞金規程（家屋全壊 6 万円、半壊 4 万円）に基づき、7 県猟友会を通じて 58 件合計 2,740 千円を贈呈することとしました。（支払が令和 2 年度になるものを含む。）

(災害見舞金積立金)

30 年度末	元年度積立額	元年度支払額	元年度末
883	1,404	1,987	300

単位：千円

(5) 中央環境審議会自然環境部会への参加

高橋徹副会長（高知県猟友会会長）が引き続き中央環境審議会委員（環境大臣委嘱）に就任し、自然環境部会や野生生物小委員会等に参加しました。